
いのち

山田 ライフル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いのち

【著者名】

N Z 3 3 5 4 E

【作者名】

山田 ライフル

【あらすじ】

お爺さんとタンポボさんは全然違うのにもとも仲良し。そんな不思議なお話です

病に倒れ、余命いくばくも無いお爺さんが、ある時散歩をしていると、汚い用水路の中に一輪のきれいなタンポポさんを見つけました。

「綺麗な花なのに、ひどい所に咲いてしまったな…」

お爺さんはタンポポさんを見て、可哀想と語りました。

そんなお爺さんを見て、タンポポさんが不思議そうに語りました。
「ここはひどくないよ?
養分もたつぱりあるし日差しもいいんだ。
こんなにいい場所はほかには無いよ?」

お爺さんは語りました。

「でも君、泥だらけじゃないか。

私がもつと良い所に移してあげようか?」

タンポポさんはビックリして語りました。

「やめてよ。人間達のいい所つて言えば、虫さんもない部屋の中で、夏でも寒くて朝か夜か分からぬ所だ。
窮屈で枯れちゃうよ!」

それよりお爺さんこゝへ、ここに暮らそつよ?
動かなくても栄養たつぱり。日差しもいいよ?」

お爺さんは勘弁してくれと笑いました。

お花さんもそつでしうつ?つと笑いました。

やがて月日が過ぎ

タンポさんは大きな綿毛のついた子供たちを青空に飛ばす時がやつてきたのでした。

「ここもいい所だったが、お前たちはもつといい所に飛んでいくんだよ。」

綿毛のついた子供たちは、ハイと言つと風に乗つて高く高く飛んでいきました。

不器用な子供が最後にふらふら飛び立つのを見送ると、タンポさんはそのまま笑つて枯れていきました。

その頃お爺さんも、病院で家族に囲まれながら最後の時を過ごしていました。

「ワシはいい人生を送ったよ。願わくばお前達もワシみたいに、いやワシ以上にいい人生を送つて欲しいなあ。」

お爺さんは家族に見取られながら

笑つて死んでいきました。

お爺さんとタンポさんをあの世から見ていた神様は全然違う者同士なのに、どうして最後だけは一人とも幸せそうに死んだのか、不思議で仕方ありません。

「早うここに来んかいな？」

杖をぶんぶん振り回して、雲を振り払いながらその答えがここに来るのをドキドキしながら待つてているのでした。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3354e/>

いのち

2010年10月28日08時04分発行